令和7年2月25日発行・発売(毎月25日発行・発売)第18巻第3号(通巻183号)平成21年3月25日第三種郵便物認可

月刊 アートコレクターズ

Art Collectors'

The Pleasure To See.
The Pleasure To Buy.

今さら聞けない！
ニッポンの近代美術

3
March
2025 NO.192

中特集
アートフェア東京19

今さら聞けない！ニッポンの近代美術

寄稿
佐藤道信 近代日本美術―形成と削除
大谷省吾 破天荒には理由がある

近代美術の作家に影響を受けた現代作家18選

ギャラリストに聞く

今注目したい近代作家13選

現代の美術業界をリードするギャラリストたちに、今注目している近代作家や、その魅力、再評価する理由を教えてもらった。さらに、そもそも近代作家とはどの年代の作家と定義するかや、マーケットにおける日本の近代美術の可能性についても聞いた。

ぎゃらりい秋華洞
田中千秋
代表取締役

菱田春草 ひしだ しゅんそう［1874〜1911］

「夕の森」1904年　絹本彩色　44.5×60.0cm　飯田市美術博物館蔵

日本人として何をすべきか、という視点が入っている作家が「近代」の作家と言えるのではないかと思います。近代はある意味、「近代的自我」や「市民意識」など、江戸時代の「無意識状態」とは少し違い、社会性のようなものについて考えていた時代なのではないでしょうか。日本人というのは何か、すべての人にとって自分とはなんなのかを考えるのに近代絵画は必要で、そこから繋がっているのが現代ということになるのだと思います。混乱の日本社会において、もう少し近代や日本について真面目に考え、心躍る精神の輝きを取り戻したいですね。

さて、菱田春草は、若い人はあまり知らないのではないでしょうか。横山大観と並んで、「日本近代」の代表たる「日本画」を発明したと言っていい美術界の偉人・岡倉天心の秘蔵っ子とも言える存在です。産みの苦しみの中、絞り出すように静謐な精神をもって〈日本人〉絵画を描いた菱田春草の絵は心を打つものが多く、今も深い感動を誘います。「日本画」「洋画」の違いは今でも語られることが多いですが、菱田春草その人は日本人が描くものはすべて日本画、それでいいではないかと言っており、僕もそれでおおいに結構だと思います。

ギャラリー川船
川船 敬
代表取締役

村山槐多 むらやま かいた［1896〜1919］

「カンナと少女」1915年　水彩、紙　90・5×60・3cm　個人蔵

「日本の近代美術」を俯瞰してみると、創作上もっとも重要な“個性”が顕著に現れてくる時期が1920〜30年代だと言えます。岸田劉生は外せませんが、「アクション展」「三科」に参集した二科の若きアバンギャルド作家たち、また、萬鉄五郎、村山槐多、関根正二、柳瀬正夢といった先駆的、個性的な画家たちは、とにかく面白い。

特に槐多は、美術教育という枠から外れたところに、原初の魂剝き出しにポンと産まれ出たといった感じです。感覚からして他を圧倒して独自なものが満ち溢れている。そして迫力がある。例えば、槐多没後に全盛期を迎えたフォービズム、その作家たちの作品と比べてみると、槐多の本質がよく理解されます。彼のデッサンに顕著ですが、荒々しく迫力満点に表出される感情は、よくよく見ていくとその底に静まったものを蔵しています。この「カンナと少女」にしても、普通のものを描いているようでどこか不思議で、色にしろ顔の表情、ひざに両手を置いた姿勢にしろ、なにかとても曰く言い難い感覚です。西洋の物まねではない、はじめて日本独自の〈洋画〉を描いた作家の一人だと思います。

ギャルリーためながの創業者
爲永清嗣
代表取締役

藤田嗣治 ふじた つぐはる［1886〜1968］

「虎猫」1924年　油彩、キャンバス　個人蔵
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024　G3686
※「藤田嗣治　7つの情熱　LES 7 PASSIONS DE FOUJITA」(2/1〜3/30・パラミタミュージアム)で展示。

藤田嗣治は近代の作家と認識される場合も多くみられ、この時代の中では特におすすめしたい作家です。

藤田はエコール・ド・パリの画家たちとの交流のなかで、乳白色と称される艶やかな下地、その上に日本の面相筆と墨で細い輪郭線を引く独自のスタイルを確立。西洋と日本が融合し、洗練されたその作風は一世を風靡しました。藤田はギャルリーためながの創業者・爲永清司と特に親交が深く、50年代、爲永はパリのアトリエを頻繁に訪れました。藤田は作品について助言を求めたり、あるときは目を瞑ったまま見事なデッサンを描いて卓越した技術を披露したりすることもあったといいます。爲永は画商としてだけではなく、友人として藤田より託された名品の数々を日本に持ち帰り、多くの人々に紹介してまいりました。

昨年、日本を訪れた外国人旅行者が過去最多を更新したように、日本人ならではの感性が活かされた美術もまた、世界からは魅力的に映るのではないでしょうか。当画廊では現代の優れた日本人作家を世界に紹介し、マーケットをつくりだす存在となれるよう今後も尽力してまいります。